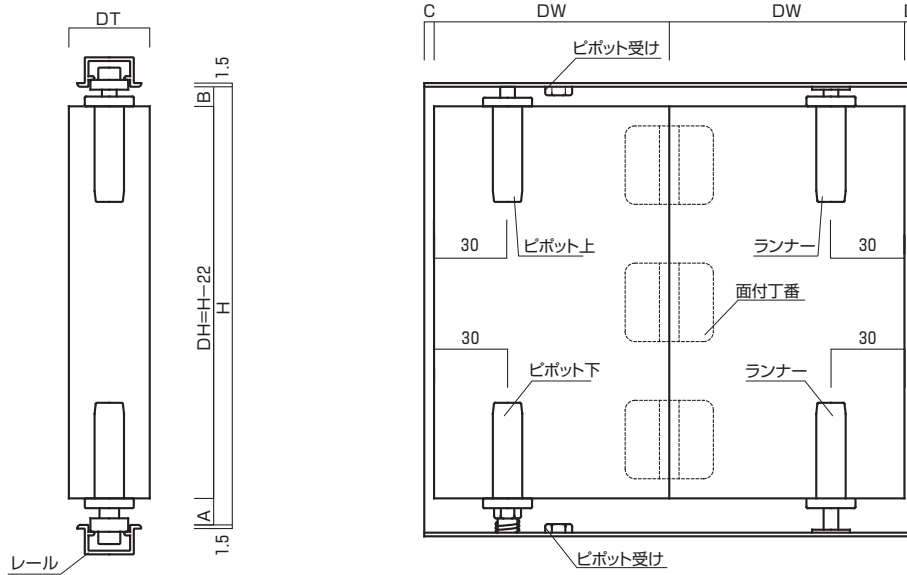
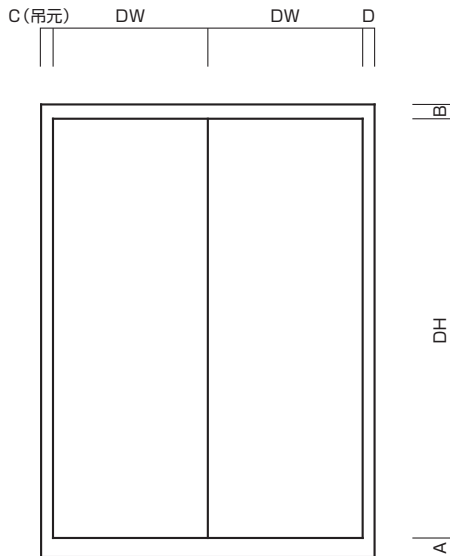


■ 設計資料.1 ■

■ 納まり図



■ 扉と枠の隙間寸法



■ 高さ方向

- A寸法:下部のレールと扉の隙間
A=10~16
- B寸法:上部のレールと扉の隙間
B=6~12
- DH寸法:ドアの高さ
DH=H-22

■ 巾方向

扉の幅、厚さにより枠の内寸法が変化しますので注意が必要です。

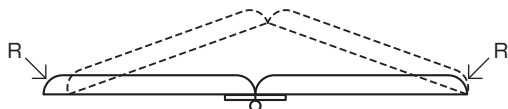
C寸法:吊元側の隙間

扉厚 (DT)	C寸法 (吊元)
30	3.8
33	4.5
35	5.0
40	6.3

D寸法:戸先側の隙間

扉厚 (DT)	扉巾 (DW)			
	300	350	400	450
30	3.4	3.0	2.6	2.3
33	3.9	3.4	3.0	2.6
35	4.2	3.6	3.2	2.9
40	5.1	4.4	3.8	3.4

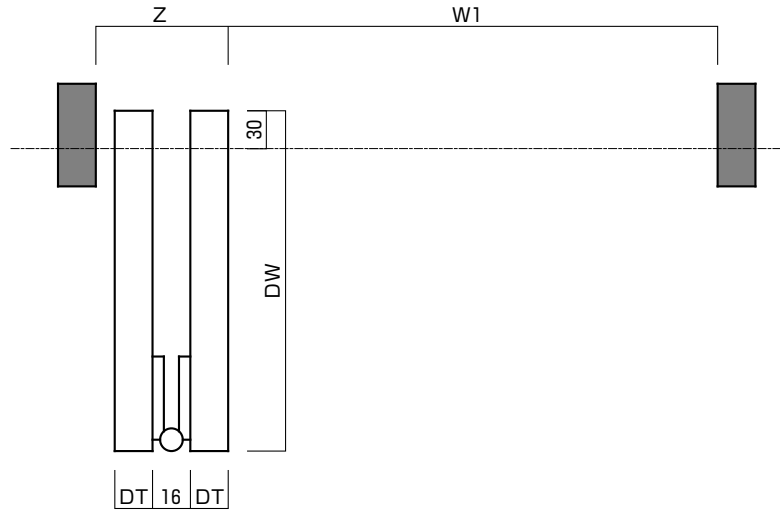
C寸法及びD寸法は、扉のコーナー部の面取等を施さない場合の必要寸法です。コーナー部の面取やR取をした場合は、扉と枠の隙間を小さくすることができます。



■ 設計資料.2 ■

■ 有効開口寸法

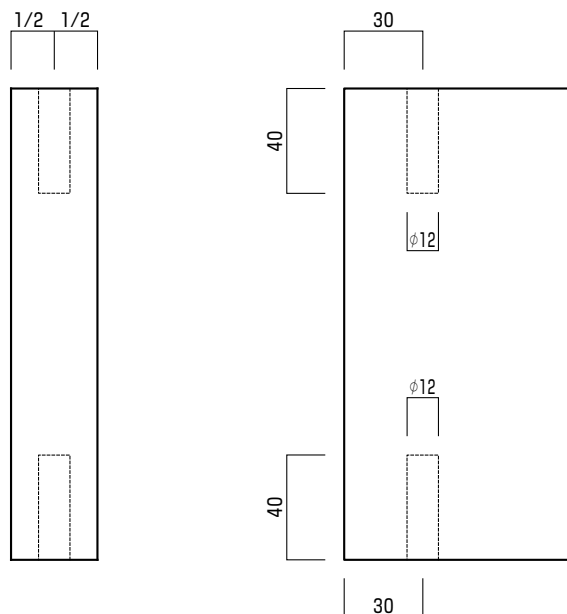
*扉を開けたときに扉の納まり寸法(Z)が生じますのでご注意ください。



扉厚(DT)	扉巾(DW)			
	300	350	400	450
30	512.4	612.0	711.6	811.3
	94.8	94.8	94.8	94.8
33	508.4	607.9	707.5	807.1
	100.0	100.0	100.0	100.0
35	505.7	605.1	704.7	804.4
	103.5	103.5	103.5	103.5
40	499.1	598.4	697.8	797.4
	112.3	112.3	112.3	112.3

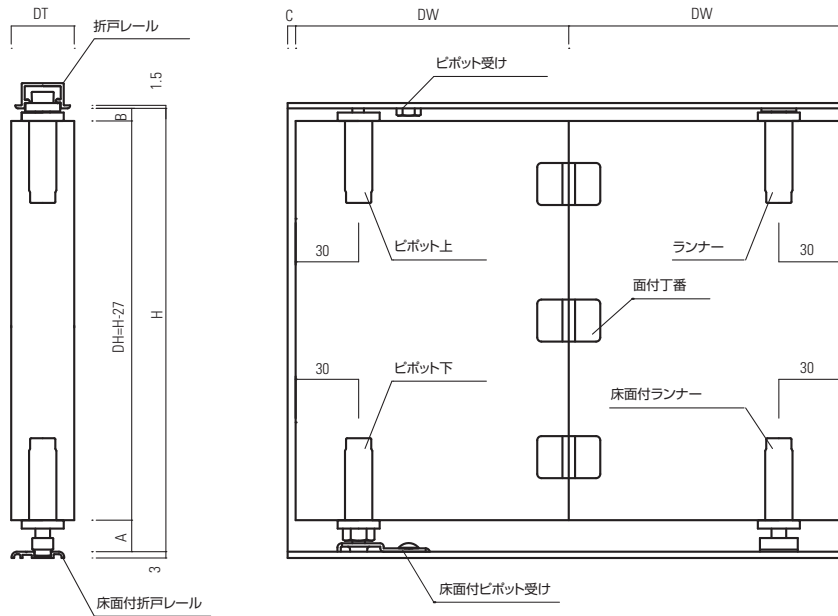
上段	W1=有効開口寸法
下段	Z=扉の納まり寸法

■ 掘込み寸法



■ 設計資料.3 ■

■ 納まり図



■ 扉と枠の隙間寸法

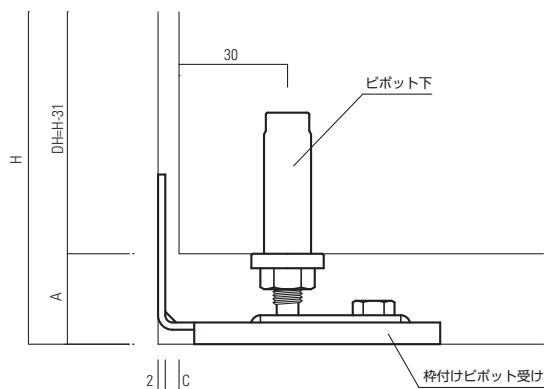
■ 高さ方向

- A寸法:下部のレールと扉の隙間
A=15~21
- B寸法:上部のレールと扉の隙間
B=6~12
- DH寸法:ドアの高さ
DH=H~27

■巾方向の寸法は、フロンテア折戸金物の設計資料を参考にしてください。

■ 設計資料.4 ■

■ 扉と枠の隙間寸法



■高さ方向

- A寸法:下部の床と扉の隙間
A=19~25
- 吊元寸法:ドアの高さ
DH=H-31

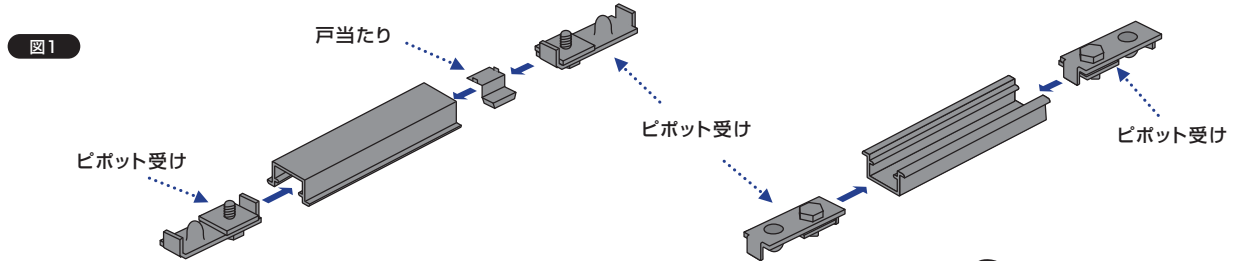
■巾方向

- 吊元寸法:吊元側の隙間
吊元側の隙間=C+2

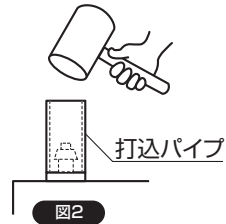
※C寸法は、フロンテア折戸金物の設計資料を参考にしてください。

■ 施工手順資料 ■

1. 上レールにピボット受け金具、及び戸当たり（4枚の場合）を戸先方向を確認し、おおよその位置に差し込んで下さい。下レールにもピボット受け金具を戸先方向を確認し、おおよその位置に差し込んで下さい。（図1）

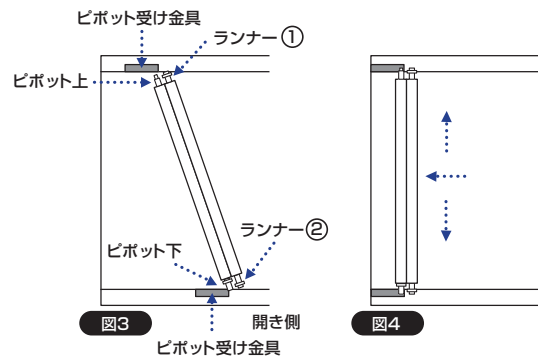


2. 4枚扉の場合は戸当たりの突起部のある方を正面にしてレールを上框に取り付けて下さい。下レールは、上レールと平行になるように、位置決めをした後、固定して下さい。



3. ランナー、ピボットを扉に取り付けて下さい。（図2）
（注意：必ず打ち込みパイプをあて、破損ないように打ち込んで下さい。）

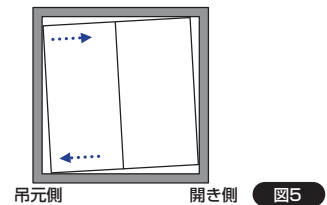
4. ピボット受けは固定せずにフリーの状態にして図3のように上下の位置にずらしておきます。



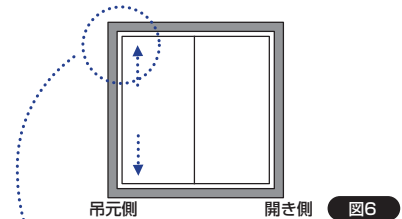
5. 戸を折りたたんだ状態で傾けて、ピボット下を下のピボット受け金具に、次に上のランナー①を上レールに入れます。（図3）

6. 図4のように、戸を垂直に立てていきながら、ピボット上を上レールのピボット受け金具に、下のランナー②を下レールに入れます。

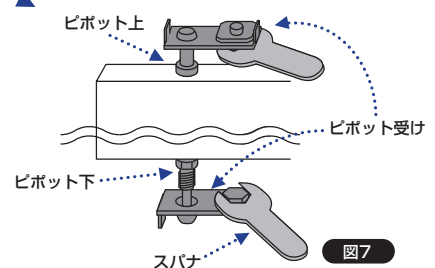
7. 戸が傾いていたり、左右どちらかに寄りすぎている場合
例えば、戸が図5のように傾いている場合は、上のピボット受け金具を開き側に寄せ、下のピボット受け金具を吊元側に寄せて調整して下さい。
調整後は図7の様に上下のピボット受けをスパナでしっかりと固定して下さい。



8. 戸の上下調整（図6）は戸を閉めた状態のまま、ピボットの調整部をスパナで回して行って下さい。



9. 4枚扉の場合は戸当たり用のストライクを開き戸の収納側に取り付けます。戸当たりの前後調整ネジで戸厚に対する調整をして下さい。



注意事項

ピボット受けの固定をしっかりと行わないと後でネジが緩んで戸外れの原因となりますので、十分御注意ください。万が一ネジが緩んでくる様なことが、ございましたら危険ですのでしっかりと締め直して下さい。（図7）